ロームシアター京都　イベントカレンダーデザイン業務
受注候補者選定プロポーザル
申請要領

１　媒体の目的

毎月の全催物情報（自主・貸館含む）を広報するためのパンフレット。

日々さまざまな催物が行われるロームシアター京都の催物を一覧で識別できる媒体として発行する。デザインは、シンプルで見やすく、経年的に採用し得る普遍的なデザインとし、かつ催物ごとの識別が容易にできること。表紙のデザインは、ロームシアター京都の多彩な催物、幅広い層の来館者が集う場であることを印象的に表現するものとする。

２　企画提案書について

企画提案書の作成にあたっては、次の内容を記載するようにしてください。併せて、「審査方法及び評価基準表」の評価項目、評価ポイント、評価点の配点等を参考に作成してください。なお、当プロポーザルにおける提案・デザイン内容は、プロポーザル提出者のデザイン力等を判断するために行うものであり、採用された事業者における提案内容をそのまま実施するものではありません。

ア　企画提案書　６部（正本１部、副本５部）

【仕様】

・日本工業規格Ａ３用紙を横に使用し、左綴じ、片面印刷としてください。
・各企画提案書の表紙には、社名を記載してください。
・１つの項目につき複数ページにまたがって記載いただいても構いません。

【記載内容】

本資料内の別紙「ロームシアター京都の劇場コンセプト」、「ロームシアター京都の広報について」を参考に、以下 9 点についての提案を記載してください。なお提案内容の書式は自由とします。

●表紙デザイン作成（2027年6月号～2029年5月号の計24号分）

※1案ごとに共通のイメージで毎号のデザインを展開する想定で作成すること。
※タイトル(「イベントカレンダー2027」（英語表記「EVENT CALENDAR2027 でも可)）、月（日英どちらでも可）及び、劇場ロゴタイプ（「参加説明書」11 提供資料（3））を必ず入れること。
※施設写真素材（「参加説明書」11 提供資料（6））の使用は任意とする。

●中面催物一覧フォーマット2件

※「参加説明書」11提供資料（1）を使用すること。

●表紙裏（右左）1案以上

※「参加説明書」11提供資料（2）を使用すること。

●裏面　純広告、狭域地図データ、アクセス、SNS情報、問い合わせ　１案以上

※「参加説明書」11 提供資料（4）、(5）を使用すること。

※地図は、提供資料を元に新規作成してもよい。

イ　作成スケジュール（納品時期は別紙「仕様書」参照）　１部

【仕様】任意様式

【記載内容】仕様書を確認の上、校正のタイミング、納品期限を考慮したスケジュール表を提出してください。

ウ　組織体制（事業実施体制）　１部

【仕様】任意様式

【記載内容】本業務に従事する人員体制及び組織図が分かるように記載した体制表を提出してください。

※共同企業体で提案する場合は、構成するすべて事業者を明記すること

エ　見積書（消費税及び地方消費税相当額を含まない）　１部

【仕様】任意様式

【記載内容】本業務に係る金額

オ　業務実績　１部

【仕様】任意様式

【記載内容】業務実績を記載（「参加説明書」2（1）に記載の実績を含む）

３　事業者の選定

参加資格を有する者を対象に提出書類をもとにしたプレゼンテーション審査を実施し、その評価において事業者を選定します。

（１）プレゼンテーション実施日及び場所

実施日　2027年2月15日（月）

場所　　ロームシアター京都

※詳細は参加事業者を対象に別途通知します。

（２）実施時間

１事業者につき 15 分間程度

・デザイン案に関するプレゼンテーション 10 分間

・審査員による提出書類内で生じた疑問に関する質疑応答 5 分間

（提案業者入れ替え、準備 5 分間）

（３）使用機材

プレゼンテーション審査においては提出済みの書類を使用したプレゼンテーションを基本とします。審査員用の書類は提出済みのものを用意いたします。印刷物サンプルを別途用意されたい場合は参加事業者自身で持ち込んでください。なお、プロジ

ェクター等の機材は使用できません。

（4） 内容

アートディレクション案についての説明を受け、その後、各デザイン案への展開やデザインにおいてアピールしたい点等についての説明を受けます。その後、審査員が提出書類内で生じた疑問点について、質疑応答を行います。

4 参考資料等

本プロポーザルにおける提出企画案の作成に当たっては、当財団から提供する資料をご参照ください。

関連計画等につきましては、いずれも、ロームシアター京都ウェブサイトの以下の URL から閲覧またはダウンロードすることができます。

① ロームシアター京都について

https://rohmtheatrekyoto.jp/about/

② ロームシアター京都開館 5 周年記念誌

https://rohmtheatrekyoto.jp/5th-anniversary/book/

※本誌を閲読されたい場合は各自ご購入・公共図書館等でお借りになってください。

③ ロームシアター京都自己評価書

令和 7 年度

https://www.kyoto-ongeibun.jp/img/foundation/pdf/rohmtheatrekyoto_hyoka_r7.pdf

令和 6 年度

https://www.kyoto-ongeibun.jp/img/foundation/pdf/r6_rohmtheatrekyoto_hyoka.pdf

5 問合せ及び提出先

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町１３

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

ロームシアター京都 （担当：石川、山本）

・電話 075-771-6051（10:00～17:00 年中無休・臨時休館日等により変更の場合あり）

・ファックス 075-746-3366

・電子メール press@rohmtheatrekyoto.jp

以上

別紙

ロームシアター京都　劇場コンセプト

劇場文化をつくる

ロームシアター京都は、文化芸術の創造・発信拠点として、文化芸術都市・京都の名を高め、京都のまち全体の発展に寄与することを目指しています。京都に「劇場文化」を根付かせるために、文化芸術の継承・創造・発信・交流拠点として、舞台芸術公演が行われるホール公演のだけでない多彩な事業・プロジェクトをおこない、京都における文化芸術のハブ機能を果たすことを目指しています。具体的に、以下４つのビジョンを掲げて事業展開をしています。

① 「つながり（交流）」
地域・世界との自由な交流を行い、多様な人々が集い、出会う場を目指す。

② 「つくる（創造）」
質の高い舞台芸術の鑑賞機会を提供し、新たな文化創造の場を目指す。

③ 「育てる（育成）」
次世代の育成、若年層が未来の夢を描く場を目指す。

④ 「活かす（生活・普及）」
生活と芸術の接点となる劇場の姿を提示し、賑わいに満ちた場を目指す。

イベントカレンダーのデザインにあたって

2016 年に京都会館からロームシアター京都に生まれ変わってから、2026 年 1 月に 10 周年を迎えました。新しいイベントカレンダーのデザインとして、多様な人が手にとることを想定した、見やすさやわかりやすさなどのアクセシビリティへの配慮を重視しています。

併せてこれまでのイベントカレンダーでは、ロームシアター京都のブランディングを担う「顔」として、主に京都会館からのリニューアルを意識し、主に劇場の建築や建築意匠にフォーカスを当て、表紙デザインを展開してきました。次のフェーズとして、それらに加え 10 年間で築いてきた劇場文化を意識した展開を考えています。